



- 最新事情 こどもセンター（中面） ● 着任ごあいさつ・北部病院からのお知らせ（裏面）

2023年 最新型Robot支援手術 (da Vinci Xi) を開始



ロボット支援手術委員会 委員長
外科系診療センター長
甲状腺センター長・特任教授
ふくなり のぶひろ
福成 信博



同 副委員長
消化器外科診療科長・教授
いしだ ふみお
石田 文生

待ち望まれていた手術支援ロボット「ダビンチXi」を北部病院にも導入し、2023年より運用開始いたします。ロボット支援手術は、本邦では前立腺切除術、婦人科手術で始まり、次いで直腸・結腸癌手術、胃癌手術、肺手術など手術の対象が広がって保険適応となってまいりました。

ダビンチXiは通常の内視鏡手術と同じように、おなかや胸に小さな穴を開けてロボットアーム、カメラを挿入します。術者は患者さんから少し離れた手術室内でモニターに映し出される高精細3D画像（立体視）を見ながら、コントローラーを動かすことで、ロボットアームを遠隔操作します。ロボットアームの先端（鉗子）は多関節で可動するので人間の指のように繊細に動き、さらに手振れも補正するため、“全くブレない、振るえない手術”によって神経をはがしたり血管を縫合したりする緻密な手術が可能です。実際の執刀は、ダビンチ手術システムを使用するための認定ライセンスを持つ医師が行います。手術の介助も、トレーニングを受けている看護師が行います。

当院では消化器センター外科、産婦人科、泌尿器科、呼吸器センター外科において実施予定です。より高度で精密な治療を安全に行うためにスタッフ一同、あらゆる準備をして治療させていただきます。

引き続き、地域医療機関の皆様と連携を図りながら、患者さんが最適な治療を受けることができるよう努めてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。



こども センター

最新事情



こどもセンター長
小児内科診療科長・教授

いけだ ひろかず
池田 裕一



こどもセンター
小児外科診療科長・准教授

すぎやま あきひで
杉山 彰英

こどもセンターは小児科、小児外科、NICUの各専門医から構成され、30名以上の医師がチームワークを組んで小児の総合診療に当たっています。

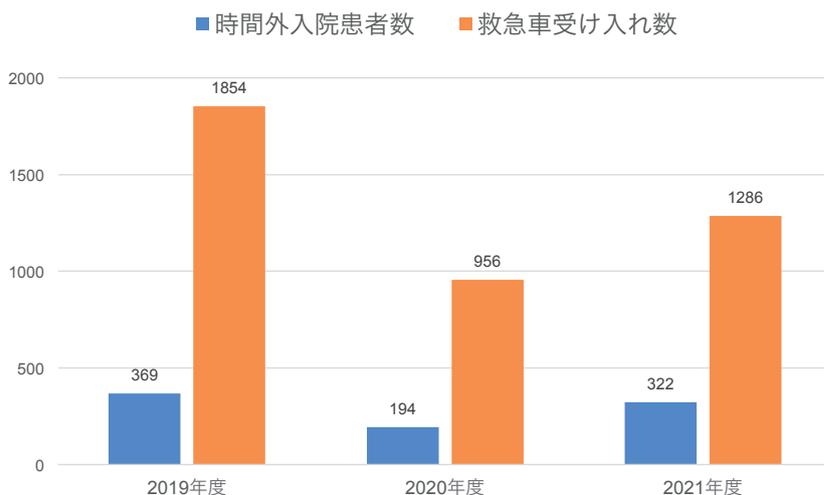
小児内科では、横浜市北部地域の小児の中核病院として専門領域を問わない診療体制を構築しています。

小児外科は2002年4月の開設以来、小児内科、新生児科とともに、内科、外科の境界がないシームレスな医療を行い、常に「お子さんにとってベストな治療法は何か?」と考えて診療を行っています。

小児内科 外来診療のご案内

初診診療は月曜日から土曜日まで毎日実施しており、新生児から思春期までの小児のご紹介を受けています。午前中にご紹介いただく患者さんは、早産、低出生体重児のフォローアップから、肺炎、喘息、尿路感染症などのCommon disease, 更には各種専門疾患、発達の悩みや睡眠障害まで多岐にわたっています。そのため、平日の午後は専門外来の枠を設けて、小児消化器外来(火曜日午前、金曜日午前)、小児循環器外来(月曜日)、アレルギー外来(木曜日)、神経外来(月曜日、水曜日)、腎臓外来(火曜日、木曜日、金曜日)、内分泌外来(月曜日、木曜日午前)、新生児フォローアップ外来(火曜日、金曜日)、川崎病外来(水曜日)にて専門的な診療を提供しております。

また、小児科には3名の児童心理士がおり、知的特性や発達特性の検査および評価、心理カウンセリング(計5回まで)を実施しています。救急診療は午前、午後、休日を問わず、24時間365日受けて入れており、2~2.5次の小児の急患に対応できる体制を整えています。



小児内科 入院診療のご案内

当院は横浜市小児救急拠点病院として常に救急患者の受け入れを行なっているため、緊急入院が全体の8割以上を占めています。緊急入院を要する疾患は、感染症、呼吸器、けいれん性疾患の3つが最も多く、他に急性腹症や重症心身障がい児の急性憎悪などもあります。また、当院は横浜市北部地域における小児

コロナ拠点病院として、新生児から学童まで多くのコロナ患者さんも入院してきています。

NICUは地域周産期母子医療センターとして、横浜ブロックの中核病院の役割を担っており、出生体重が1000g未満の超低出生体重児から、出生後に疾患を持った新生児まで幅広い患者さんを対象にしています。また先天性心疾患は、昭和大学病院小児循環器・成人先天性心疾患センターとの協力体制を整えています。ご家族を診療ケアのパートナーとして新生児診療にあたる、Family Integrated Careの提供を心がけています。

小児外科の特徴

1. 日常疾患への積極的な取り組み

鼠径ヘルニア、急性虫垂炎など手術を要する疾患のみならず、臍ヘルニアに対するスポンジ圧迫療法、包茎に対するステロイド軟膏療法、肛門周囲膿瘍に対する漢方療法、便秘に対する薬物療法などに積極的に取り組んでおります。

2. 整容性の高い手術創

術後の人生が長い小児の手術創は重要な問題です。当科は鼠径ヘルニア根治術、虫垂切除術、噴門形成術、胃瘻造設術などに対して鏡視下（腹腔鏡）手術

腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術（LPEC）



ヘルニア門



2ポートで手術



2～3mmの使用器具

を行っています。特に鼠径ヘルニア手術は3mmのカメラと2mmの鉗子を使用した腹腔鏡下経皮的腹膜外ヘルニア閉鎖術（LPEC）を導入し、極めて良好な整容性を得ています。また、主に新生児・乳児を対象に臍輪を利用した小開腹手術も積極的に行っております。

3. 各科との連携

内科疾患を有する患児は小児内科医、新生児科医と連携して診療しております。また、大学附属病院の特徴として様々な外科系診療科の協力を得ることが可能です。そのため、複数の領域の外科疾患をもった患児の対応も可能です。

4. 境界領域疾患への取り組み

境界領域疾患も取り扱っております。特に泌尿器疾患は停留精巣、陰嚢水腫、包茎などの幅広い疾患を扱っております。

5. 充実した診療体制

5名の小児外科医が常勤し、うち2名は日本小児外科学会が認定する小児外科指導医です。

地域医療機関のみなさまへ

今後、ますます多様化する疾患にも適切に対応できるように常に最新の知識を得て、最善の医療ができるような診療体制を構築していきますので、引き続き、ご理解とご協力をお願いいたします。

小児外科ではご紹介頂いた患者さんが速やかに受診できるよう、手術日である金曜日以外に初診枠を設けております。外科への受診は患者さんや親御さんにとってハードルが高く感じるかもしれませんが、当科を受診することで手術をしなくて済む場合もあります。お気軽にご相談するようお願いできれば幸いです。

着任ごあいさつ

救急センター 診療責任者

准教授 加藤 晶人



地域の医療機関関係者の皆様におかれましては、平素より当院の地域連携業務にご協力をいただき、感謝しております。2022年10月11日より救急センターの診療責任者を拝命いたしました加藤晶人と申します。

現在当救急センターは救急科専門医1名と精神科を含めた各診療科からの院内応援医師により、主に救急搬送された方の診療を行っています。診察後に緊急入院・手術・処置が必要になった場合は院内の専門診療科と緊密に連携し専門診療につなげています。当院は横浜市内に11存在する二次救急拠点病院Aの指定を受けており、心肺停止・ショックなどの重症な方の受け入れを積極的に行い、地域中核病院として地域の救急医療に貢献しています。このため、救急診療科としての通常外来診療や予約診療は行っていません。また、メディカルコントロール体制として、横浜市消防局指導医(特定行為指示・助言)や、病院前救護に関する勉強会を開催し、救急隊員とともに病院前医療の充実・向上に努めています。

今年の冬は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)第8波と共にインフルエンザの流行も危惧され、より一層感染対策を講じなければならない状況と考えています。当救急センターの救急外来にはCOVID-19にも対応可能な隔離設備を導入しており、同時に複数の感染患者への診療を可能としています。

引き続き地域医療機関の先生方と連携をとり、地域医療に貢献したいと考えています。今後ともよろしくお願いいたします。

北部病院からのお知らせ

1 月曜日祝日(国民の祝日にあたる月曜日)の対応

2023年		曜日	休日名	対応
1月	9日	月	成人の日	※救急対応を原則とし、救急、初診、紹介、並びに通院中の方で状態変化による臨時再診をお受けします。 ※紹介状がない場合は選定療養費(8,800円)が別途発生いたします。

2 次回の地域医療連携フォーラムは2月15日(水)の予定です

令和4年11月24日(木)にWEBで開催しました第25回地域医療連携フォーラムには、院内外から60名の参加がありました。ありがとうございました。

第26回地域医療連携フォーラムは2月15日(水)19時30分から、呼吸器センター及び消化器センターの講演を予定しています。(今回は水曜日の開催となります。)

開催方法・内容等は後日お知らせします。ご参加のほどお願い申し上げます。